



平成19年11月 6日

各 位

会 社 名 昭和ゴム株式会社  
 代表者名 取締役社長 重田 衛  
 (コード番号 5103 東証第二部)  
 問合せ先 取締役総務部長 佐藤 一石  
 (TEL . 04 - 7131 - 0181)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年 7月31日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

(金額の単位：百万円)

### 1. 連結業績予想数値の修正

#### (1)20年3月期中間連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日~平成19年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	2,012	15	8	1	0.08
今回修正予想(B)	2,025	73	33	733	29.43
増減額(B-A)	13				
増減率(%)	0.6				
(ご参考)前年中間期実績 (平成19年3月中間期)	1,922	10	64	96	0.54

#### (2)20年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	3,822	5	28	41	1.78
今回修正予想(B)	4,005	62	38	718	28.84
増減額(B-A)	183				
増減率(%)	4.8				
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	3,649	63	244	281	14.65

### 2. 個別業績予想数値の修正

#### (1)20年3月期中間個別業績予想数値の修正(平成19年4月1日~平成19年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,815	54	70	76	3.31
今回修正予想(B)	1,883	77	82	780	31.43
増減額(B-A)	68				
増減率(%)	3.8				
(ご参考)前年中間期実績 (平成19年3月中間期)	1,734	19	69	102	0.57

## (2)20年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	3,454	48	85	97	4.18
今回修正予想(B)	3,682	75	94	773	31.07
増減額(B-A)	228				
増減率(%)	6.6				
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	3,300	60	213	299	15.56

## 3. 修正の理由

平成18年3月期に固定資産の減損処理を実施しており、回収可能価額は正味売却価額により測定していましたが、今回、正味売却価額を見直したため、約235百万円の減損処理を行うことと致しました。また、当社がオプティスパン株式会社(以下「同社」)と進めております光ファイバー関連事業におきまして、営業権の減損処理162百万円及び貸付金の貸倒引当金300百万円の計上が見込まれるため、前回の業績予想に対して減益となる見込みにより業績予想の下方修正を行うものであります。

営業権減損処理を行う理由は、平成19年7月に同社が手元資金の短期貸付を行い、その返済が遅延し平成19年10月時点において事業の一部が停止したためであります。ただし、現時点では返済が履行され始めておりますので同社の事業運営は再開されております。

営業権(のれん代)350百万円(税込)につきましては、上記の理由により減損損失として、162百万円を処理するものであります。これにより、今後、当社の光ファイバー関連事業ののれん代の費用計上は減少いたします。

貸倒引当金の計上につきましては、同社に対し貸付金600百万円を同社沖縄工場の新設資金(約1,500百万円)の一部として貸付けましたが、同社における短期貸付金に対する返済遅延の発生により平成20年3月期の当中間期において300百万円の貸倒引当金を計上するものであります。なお、本引当金は当該短期貸付金の返済が完了し、今後、同社の営業利益の計上が進みリスク度が低下してきた場合は、見直しをする予定であります。

## 4. 光ファイバー関連事業の今後について

光ファイバー関連事業の今後についての同社の計画は、同社の子会社である株式会社オプティスパン研究所長野工場(長野県上伊那郡)をパイロットラインの製造拠点として整備し、平成19年12月末までに産業技術総合研究所のテルコーディア試験及びNTTの嵌合性試験を受ける予定であります。

次いで、同社と当社は、平成20年1月に東京ビッグサイトで開催されるFOE2008(「第8回ファイバーオプティクスEXPO」光通信システム、デバイス、次世代ネットワーク関連機器が一同に集まる国際専門展示会)に出展して、光フェルール及びコネクタの新製品を発表する予定であります。

また、同社の技術提携先である立命館大学大学院理工学研究科の谷研究室及び東京大学生産技術研究所の土屋研究室が、ニッケル合金フェルールの新型電鍍製造装置(従来の約5倍の生産効率)の開発に成功しましたので、本機の量産タイプの開発を進め、同社の沖縄工場に導入する予定であります。

なお、今後本事業は専務取締役の渡邊正が管掌し、光通信事業部より1名が同社に出向し、同社と協同して販売活動を進めてまいります。

以上